

歌も

れくれしときほひこく手のひまをなみ浪かきわけてふねのはしれる  
みる人のこゝろも聲をほにあげてきほひわたるぬ畫圖のみつうみ

俳句

春興三句

幼な子の菜の花かくれ蒲英公つみ

春雨や戀ねこかよふ軒の下

蝶殿の御領畑とて一里半

漁歌高く織月低し春の海

稚子櫻昔を談る男あり

無官大夫笛を吹くかたに

吹き破る笛の音かなし春の夢

観音寺南無観音寺花未だ散らず

花ちるや色即是空と濡れ佛

根芹つひ下より出つる小蟹かな

蘭

溪

蝶

二

逆

川

失

名